

フューチャースクール推進研究会の検討状況について

フューチャースクール推進研究会 座長

清水 康 敬

総務副大臣主催「フューチャースクール推進研究会」の検討状況

研究会は平成23年7月27日より、これまでに計4回開催

○ 第1回(平成23年7月27日開催)

- ・平岡総務副大臣(当時)、森田政務官が出席
- ・平成22年度成果、平成23年度実施計画等について検討

○ 第2回(平成23年12月21日開催)

- ・松崎総務副大臣、森田政務官が出席
- ・構成員による実証校(小学校)視察の状況報告、ガイドライン作成方針等について検討
- ・民間における教育情報化に関する取組の紹介

○ 第3回(平成24年3月7日開催)

- ・松崎総務副大臣、森田政務官が出席
- ・構成員による実証校(中学校及び特別支援学校)視察の状況報告
- ・ガイドライン2012素案等について検討
- ・民間における教育情報化に関する取組の紹介

◎ ガイドライン2012[※]報道発表(平成24年4月10日)

※ 「教育分野におけるICT 利活用推進のための情報通信技術面に関するガイドライン(手引書)2012」

注: 小学校担当の東西2事業者による調査研究報告書、中学校及び特別支援学校の受託団体による調査研究報告書とともに以下の総務省ホームページに掲載

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/future_school.html

○ 第4回(平成24年5月31日開催)

- ・松崎総務副大臣、森田政務官が出席
- ・平成23年度成果(ガイドライン2012等)の報告、平成24年度実施計画等について検討



平岡総務副大臣(当時右)冒頭挨拶模様
(「フューチャースクール推進研究会」第1回(平成23年7月27日開催))
※なお、画面左は文部科学省伊藤官房審議官



審議に臨む松崎総務副大臣(左)、
森田総務大臣政務官(右)
「フューチャースクール推進研究会」第3回
(平成24年3月7日開催)

平成24年度フューチャースクール推進事業の主な調査研究項目(小中特共通、小学校) (フューチャースクール推進研究会第4回資料1より)

【小学校・中学校・特別支援学校共通】

避難所となった場合のICT利活用方策の調査研究

- 災害時において多くの学校施設が避難所としての役割を果たしていることを踏まえ、実証校が災害時に避難所となった際の、構築したICT環境の利活用方策と課題の抽出・分析

【小学校】

1. 学習履歴の記録・活用方策に関する調査研究

- ICTを活用し、児童一人一人の学習履歴を効果的に記録・活用する方策について検討
- 記録すべき学習履歴の種類、効果的なデータ管理・分析の方法等を整理

2. 予算制約下でのICT環境の段階的な構築、利活用方策に関する調査研究

- 自治体の予算上の理由等により、ICT機器の台数、ICT支援員の人数等が限られた場合を想定し、効果的にICT利活用を行う方策について検討

3. 紙とデジタルの連携方策に関する調査研究

- ドキュメントスキャナーやデジタルペンを活用し、紙の長所とデジタルの長所を効果的に組み合わせる方策について検討

4. ICT機器及びネットワーク環境に関する標準要件の整理

- 3年間の実証の総括として、学校現場で活用するタブレットPCやインタラクティブホワイトボード等のICT機器が備えるべき機能、校内無線LAN環境等のネットワーク環境が満たすべき伝送速度等につき、標準要件を整理
- 東日本実証校5校と西日本実証校5校とのICT環境の比較のほか、中学校分実証校8校のICT環境との比較も含めた横断的な調査研究を実施

平成24年度フューチャースクール推進事業の主な調査研究項目(中学校、特別支援学校) (フューチャースクール推進研究会第4回資料1より)

【中学校】

1. 教科担任制等の特質を踏まえた年度始めにおけるICT環境の設定
 - 2年目となり、初めて迎えている年度始めの対応について、教科担任制などの中学校の特質や各々に構築されているICT環境に応じた、年度始めのICT環境の設定の留意点を整理
2. クラス規模が大きくなる傾向等の特質を踏まえたICT環境の運用、コストや体制に関する課題の整理
 - クラス規模が大きくなる傾向などの中学校の特質や各々に構築されているICT環境に応じた、運用に関する留意点を整理
3. 授業の内容が高度化するなどの特質を踏まえたICT支援員の業務
 - 授業の内容が高度化するなどの特質を踏まえた、ICT支援員のあり方に関する留意点を整理
4. 授業の内容が高度化するなどの特質を踏まえたICT環境の利活用
 - 授業の内容が高度化するなどの特質や各々に構築されているICT環境に応じた、ICT利活用事例を整理
5. 独自のテーマに基づく実証
 - 小中一貫の情報教育における課題の抽出・分析(新地町立尚英中)
 - 異なる端末の利活用における課題の抽出(和歌山市立城東中)
 - 所在地が異なる中学校と高校における双方向通信を用いた協働学習(佐賀県立武雄青陵中) 等

【特別支援学校】

特別支援学校においては、上記に示すICT環境の構築・運用等に関する各課題について、特に次のような課題の抽出・分析をおこなう。

- 校内の学級と病院内等の学級等を接続した双方向通信に関する課題の抽出
- 一般向けのコンテンツを障害のある児童生徒が用いたり、児童生徒一人一人の障害等に応じて改変したりするなどの課題の抽出

(参考)これまでのICT環境の主な運用・利活用事例(中学校、特別支援学校)

(フューチャースクール推進研究会第4回資料3より)

24年度から利活用が本格化した中学校及び特別支援学校では、教室で児童・生徒が自分の考えをタブレットPCを用いてまとめて、その画面をIWBに投影し、学級全体で話し合うなど授業においてICT環境の利活用の様々な取り組みが行われている。

これらの他に、教室以外での特徴的な利活用事例が報告された。

【中学校の特徴的な利活用事例】

1. タブレットPCを利用して、生徒総会を実施(横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中)
 - 印刷の手間や用紙の省資源になった。ECOを意識させるひとつの手立てとして効果的であった。
2. カナダ国際親善訪問でのアンドロイド端末の利用(和歌山市立城東中)
 - Skype、Mailによる学校、家庭との交流
 - GoogleMapによる検索、カメラ機能による写真、ビデオ撮影
3. タブレットPCを修学旅行で利用(新見市立哲西中)
 - 現地で撮った写真等を学校にいる先生や保護者も閲覧することができた。
 - 生徒は現地でプレゼン資料を作成したり、まとめることができ、帰ってからの作業を省略することができた。

【特別支援学校の特徴的な利活用事例】

1. 金環日食の様子をリモートカメラで配信(京都市立桃陽総合支援学校)
 - 金環日食の様子を病室で見ることができた。
2. 本校と分教室間のTV会議システムを活用(京都市立桃陽総合支援学校)
 - 着任式・始業式や児童生徒会活動(立会演説会)などの特別活動を円滑に行うことができた。